

人道支援に強い連帯

AMD A活動報告

救える命があれば

どこへでも

□21□

菅波 茂



宮野湾市の沖繩コンベンションセンターで開かれた第四回世界のウチナーンチュ大会に十四、十五の両日、参加した。大ボリュームで演奏されている野外音楽ステージを

取り囲んだ観客席、各国の物産展、さまざまなお店にカラフルな服装をした人の波……。物珍しさにカメラのシャッターを押しまくった。

ワールドビジネスのコーナーでは、ブラジルのサンパウロ市で大成した人たちが集い交流するウ

世界のウチナーンチュ

チナーンチュ大会がうらやましかった。
この人間関係は無形の財産だと思つた。沖繩県では当たり前だが、血縁の被災地に派遣できた共同社会ではない日本の他の都道府県では不可能である。

「県人会長・新ウチナーン民間大使会議」の表彰式と懇親会があつた十四日夕、あいさつをする機会をいただいた。第二回沖繩平和賞受賞から二カ月後に発生し、二十二万人以上の死者がでたスマトラ島沖大地震・津波の被災者救援活動に、副賞の一千万円を活用させてもらったことについて感謝した。

合同で百人以上の医療スタッフを、インドネシア、スリランカ、インドの被災地に派遣できたことだ。今後の中南米の自然災害被災者救援活動に、中南米のウチナーンチュネットワークによる支援をお願いをした。大会から一カ月後の十一月後半、ホリビアのサンタクルスでAMD A中南米地区国際会議を開催する予定だ。目的は中南米における自然災害被災者救援活動体制の強化。大会の会場では、第二回沖繩平和賞受賞団体として、海外県人会長や民間大使の方々と「AMD Aと海外ウチナーンチュとの協力的体制」について積極的に意見交換をするこ

那覇空港から中南米へも



とができた。

災害という不条理の世界に放り出された人たちは「なぜこんな目に遭わなければならないのか」と嘆く。「あなたを見放さない、あなたを見捨てない、あなたを見限らない」との緊急人道支援活

動のメッセージこそ最大の連帯で、絶望から希望への転換となる。その最良のメッセージは被災現場への参加だ。「なぜあなたは私を助けるのか」の問いに「友だから」が血縁共同体社会の答えである。そして

インドネシア・ジャワ島津波緊急医療支援活動で巡回診療中の比屋根勉医師(右) 11月7日(AMD A提供)

さらに続けたい。「困ったときに助けてくれるのが真の友である」と。

「緊急人道支援活動」に関し、沖繩との出会いが十年前だった。当時、沖繩県国際都市形成推進室長だった宮城正治氏、上原良幸氏(現企画部長)がAMD A本部(岡山県)を訪問されたからだ。目的は「那覇空港を沖繩から世界に向けた緊急人道支援の空港にする」ための協力依頼だった。

以後、AMD A沖繩県支部が大仲良し先生(沖繩セントラル病院長)を支部長として一九九五年に発足。AMD Aペルー支部はウチナーンチュ二世のヤマニハ先生を支部長として九六年に発足し

ハリケーン「ミッチ」(九八年)、エルサルバドル大地震(二〇〇一年)、グアテマラ豪雨(〇五年)、今年七月のジャワ島津波による被災者緊急救援活動をもに実施した。ウチナーンチュによる緊急人道支援はずで「開かれた結いの精神」の下に開花している。

海外ウチナーンチュ人道支援ネットワーク形成と那覇空港との直結が、AMD Aとしての沖繩県に対する回答である。あと三年で可能となる。沖繩平和賞を創設した稲嶺恵一知事にAMD A名誉顧問としてご指導をいただければ幸いである。AMD A(特定非営利活動法人アムダ)理事長……この連載は毎月第四日曜日に掲載します。